

チャレンジ！！オープンガバナンス 2021 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	12-7-1	文京区における地震発生時の避難方法の選択について	東京都文京区
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	文京区民のための PODchat		

（注1）地域課題タイトルは、COG2021 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	Tea POD -Prevention Of Disaster-		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数（公開）	3名		
代表者（公開）	馬淵彩桜		
メンバー（公開）	加藤舞子 畠山結衣		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2021_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2021 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2021@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

<b style="color: red;">アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○
------------------------------------------------------------	---

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

<地震に強いコミュニティの構築>

- ・近隣同士の顔の見える関係性、災害時に助け合える関係性を構築することで地震に強い社会をつくる。
- ・住民による災害危険性の認知が十分でないなど、自治体の取組を住民に浸透させるのが難しいのが現状。
- ・新型コロナウイルスの影響によって、避難所不足も深刻化している。

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

1 アイデアの概要<文京区と住民、住民同士のコミュニケーションの場を作る>

文京区の既存の防災アプリを、「私たち学生や住民」のアイデアをもとに改良し、住民同士のコミュニケーションの場を提供することで、地震に強いコミュニティを構築する。既にある機能に加えて「災害時に」避難所の空き具合をリアルタイムで知ることが出来たり、「日常では」チャットで区と住民、住民同士で交流したりする。アプリをツールとするが、最終的には顔の見える関係性を築くことを目標とする。

2 どのように、既存の防災アプリを改良するか

文京区は、防災アプリとして、「文京区防災地図」（GPS 機能付き）と「文京区 防災情報一斉通知アプリ」を導入している。しかし GooglePlay 上の「文京区防災地図」の評価数は 8 件、「文京区 防災情報一斉通知アプリ」のは 2 件、AppStore 上の「文京区 防災情報一斉通知アプリ」の評価数は 1 3 件、「文京区 防災情報一斉通知アプリ」は 5 件のみであることから、その存在が知られていない。

アプリの改良後の機能として、大きく二つのことを考えている。一つは**災害に関する情報や災害時に役立つ情報の提供**である。町会ごとの災害危険度の色分け地図や災害時の避難所の収容人数や避難人数をリアルタイムで提供する（昨年度 COG 参加の目黒区と連携したい）。また、区での取り組みを適宜掲載する。もう一つは、**住民同士や区と直接やり取りできるシステム**である。気になることがあったら、区にすぐに質問ができ、回答を得ることが出来る。聞かれることの



2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

多い質問は、区や町会の掲示板にQ&Aを掲載する。そのため、災害が起きた時の不安を軽減でき、落ち着いた正しい行動が可能となる。また、住民同士でやりたい行事や企画を自由に提案出来る空間をつくる。このチャットを通じて、住民同士で行事やイベントを企画できるようにし、町会の協力の下でそれらを開催できるようにする。

3 どのように、コミュニケーションの場とするか

文京区防災課の方と茗荷谷町会の方にインタビューする中で、区のプランと町会の把握している現状が一致していないと感じることがあった。具体的には、避難所不足への認識の違いやコロナ禍での避難訓練をするのかしないのかの意思疎通などが挙げられる。文京区と町会がより密接に連携するために、私たちが改良を提案しているアプリや掲示板を活用して**区と住民や住民同士のコミュニケーションの場を構築することが大切**である。

そこで、改良したアプリ内に区の取り組みや災害情報などを掲載し、アプリを多くの人にダウンロードしてもらうことによって、**自治体の取り組みや災害時の避難行動の住民への周知**を図る。アプリを多くの人にダウンロードしてもらうために、二つの方法を取る。一つ目は、町会の掲示板へQRコードとアプリの内容についてまとめたものを掲示する方法である。二つ目は、月に二回配られている区報の表紙の目立つ場所にアプリについての情報を掲載する方法である。

アプリの機能であるチャットを活発に行うことにより、茗荷谷町会区域の住民に行ったアンケートによって分かった、現在町会へ加入していない人の割合の多い20代、30代の町会加入や町会の行事や避難訓練への参加につなげ、**若い世代からお年寄りまで幅広い年代の住民同士の顔の見える関係性の構築**を可能にする。

Event (例)

〇〇町会に住む皆さんがやりたい企画を提案、参加することができるページです。企画の提案は文京区に通学する学生の方でもできます！ぜひ気軽に提案、参加してみてください！

企画を探す

学生の私たちと防災について話し合いませんか？
〇〇高校2年
代表：_____

私たちは学校の授業で防災について研究しています。住民の皆さんの防災意識や不安に思っていること、地域の課題などを聞きたいと思っています。参加お待ちしております。

詳しい情報はこちらから

Zoom交流会

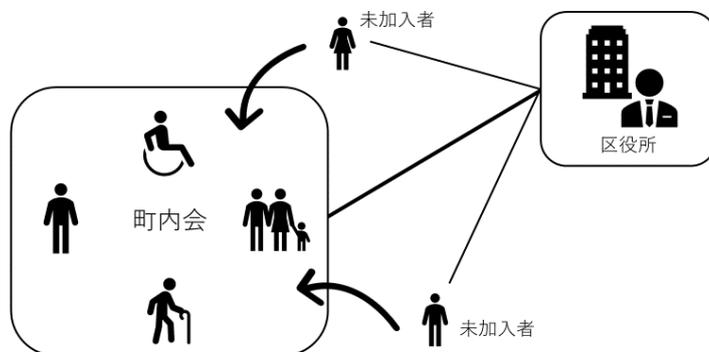
〇〇町会
代表：_____

もうすぐクリスマスですね。今年も〇〇町会でクリスマスパーティーを開催します！ですが今年は例年のクリスマスパーティーとは違ったものになりたいと思っています。そこでこの交流会で町のみなさんから様々な意見をもらいたいです。参加お待ちしております。

詳しい情報はこちらから

企画を提案する

提案する企画：
企画の内容：
参加希望人数：
対象者：
・
・
・



2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

【災害危険度】

・地震に関する地域危険度測定調査（東京都市整備局/平成 30 年度 2 月）より
地域危険度は、①災害活動困難度、②建物崩壊危険度、③火災発生危険度、の 3 つの観点から評価される。文京区内で、最も①災害活動困難度が高いのが、私たちの学校の近くの小日向三丁目である（ランク 5）。また、総合危険度もランク 4 となっており、文京区内で最も注意すべき地域の 1 つであることから、ここを対象地域に選んだ。

実際に歩いてみると、裏道に入ってしまうと緊急車両が通行できない幅 4m 以下の道路が多く見られた。幅 2.32m ほどの道路もあった。

【避難所】

・文京区の 32 避難所のうち、避難所収容率が 100%を超えるのは 21 か所（2015 年）。
（「2 人当たり 3.3 m²」で計算、ただし、国際的なスフィア基準では「1 人あたり 3.5 m²」が望ましいとされている）

→国際的な基準に従うと、32 避難所の収容率は 100%を超える。

→新型コロナウイルス感染対策を考慮すると、**避難所不足**が課題である。

【地域住民の災害への意識】

小日向三丁目を町会の区域に含む茗荷谷町会の役員さんたちにインタビューを行った。

- ・小日向三丁目災害時活動困難度のレベルが 5 であることは知らなかった。
- ・避難所が老朽化しているのと、収容人数に余裕がないので、在宅避難をすすめている。
- ・町内会には住民の約半数が加入しているが、高齢を理由に町内会をやめる人もいる。
- ・町内会ではハロウィンやお祭りなどの季節の行事を開催し、会員の人たちと顔見知りになれる。しかし、最近はコロナ禍で行事を実施できていない。

【文京区役所の取組】

○文京区役所の方へのインタビュー

- ・災害時に支援が必要な人の情報をまとめた「避難行動要支援者名簿」を作成している。
- ・文京区の避難所や災害時の危険度をまとめた「文京区防災地図」を発行している。
- ・去年本郷のホテル旅館組合と「災害時における宿泊施設の提供等に関する協定」を結んだ。災害時に体が不自由な人や高齢者、発熱のある人の受け入れをしてもらう。今後は、私立大や私立中高にも避難所として提供してもらいたい。
- ・顔の見える関係性を大切にしているが、区全体で実現させるのには無理があるので、町会単位で少人数でも積極的に避難訓練をしてほしい。

【アンケートの実施】

茗荷谷町会の範囲内に住む住民の地震発生時の行動を調査するため、アンケートを行った。11 月 8 日から 17 日にメンバーで手分けして住民の郵便ポストにアンケート用紙を投函した。1182 世帯に配布し、期限までに 176 件の返答をいただくことができ、回収率は約 15%になった。回答方法は、Google フォーム、ファックス、回収ボックスの 3 つだ。

1. 回答者の年代について

60代以上という回答が約30%だった。10代～50代という回答が70%を占めていた。3つの回答方法のうち、Googleフォームによる回答が最も多かったため、実際の割合より若い世代が多い可能性がある。

2. 世帯人数について

世帯人数は一人という回答が最多で、約40%だった。年代別に分析したところ、20代の一人暮らしの割合が最多で、次いで10代、80代だった。若者、特に学生の一人暮らしが多いと考えられる。

3. 非常食・飲料水の備蓄について

文京区は、最低3日分の非常食・飲料水の備蓄を呼び掛けているが、約42%が3日分の用意がないと回答している。特に20代の約70%が十分な備蓄がない状況である。

4. 茗荷谷町会への加入の有無

茗荷谷町会には半数以上が加入していると回答した。その理由として「地域とのつながりを持ってほしい」や「情報収集のため」といったものが多く挙がった。逆に未加入の理由としては、「メリットがない」「加入方法が分からない」などが多くあった。

5. 茗荷谷町会の行事の参加の有無

茗荷谷町会の行事には約45%が参加したことがあると回答した。参加経験のあると回答した人は世帯人数が二人以上の人が目立った。

6. 茗荷谷町会の避難訓練の参加の有無

茗荷谷町会の避難訓練には約10%が参加したことがあると回答した。行事参加に比べ、参加者が少ないことが問題である。

7. 震度6以上の地震発生時の行動

約60%が在宅避難をすると回答した。しかし、在宅避難を選択する人の中にも非常食や飲料水が十分に準備していない方がと回答した人がいた。

8. 震度5以上の地震発生時に心配なこと

火災や建物の崩壊が心配という回答が多かった。木造住宅が多く、築年数の古い住宅も多いのでそれも不安材料であるといえる。

【わかったこと、課題】

- ①茗荷谷町会地区は災害活動困難度が高いが、住民がそれを認識していない。
- ②コロナ禍によって避難所不足がより、深刻化している。
- ②自治体の取り組みが住民に浸透していない。
- ③顔の見える関係性が大切であり、それは町内会単位で実現できると考えられるが、町内会に加入するメリットが感じられない人もいる。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

<以下のように分けて書いていきます>

1. 実現する主体
2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

1. 実現する主体

文京区：資金を出す、アプリの宣伝

住民と学生：アプリ改良

住民：アプリの利用（企画を提案する、区と交流する）

町会：アプリの宣伝（区報を配る）

2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）

[アプリ改良について]

・改良の資金は <https://www.creativevillage.ne.jp/mitsumori/#result> で見積もりをしたところ、約 720 万円であった。（機能：ログイン、メッセージ、ソーシャル、音声、通知、動画）また、運用費は開発費の 10%とみて、72 万円と想定する。

・アプリ改良の準備（データ収集、紙のデータのオンライン化等）を行う期間を半年とする。これは文京区が行う。改良期間は約 1 年とし、改良は住民と学生が主体となって行う。

[アプリ運用について]

・完成後、文京区は区報に宣伝記事を載せ、各自町会で区報を配ると同時に口頭での宣伝や掲示板での宣伝をしてもらう。

・住民は基本情報の登録や災害情報の確認をする。また、顔見知りになるための企画を提案したり参加したりする。

3. 実現に至る時間軸を含むプロセス

